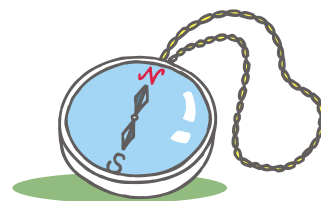


羅 針 盤

第 **24** 号 令和4年（2022年）11月14日（月）



◆ 時間を有意義に使うことの意味

毎週、月曜日の全校集会では、わずかながらの5分間程度の時間（長くても10分にも満たないはずですが）を使って全校生徒の皆さんに校長講話としてお話をしています。全校生徒数、概算で1クラスを40名在籍とすると9クラスで360名となりますが、一人当たり5分という時間を使うということは、全体で1800分つまりは30時間ということになります。この貴重な30時間の中で、如何にして有意義なメッセージを伝えることができるのか、今考えておくべきことは何か、これから何年か先を見越したうえで伝えておかなければいけないことはいったい何なのか、悩まざるを得ないことも事実です。しかし、与えられたこの時間を有意義に使い、何か一つでも日ごろは気にもかけないことからでも、新たな気づきを見つけ、一人ひとりの励みとなるべきこと、少しでも心の支えとなること、ほんの少しでも明日への希望として結びつくことは何か。とても大きな『命題』ではありますが、語り掛けるだけの価値あるものとなる努力をし続けること、一人でも多くの胸に刻まれることを目標として、校長講話をつくりあげて、投げかけることが大事であると常日頃から考えています。毎回の校長講話が皆さん全員にとって有意義なメッセージとなるようなことはないでしょう。しかし、各クラスにたった一人でも「新たな気づき」となるメッセージが伝わったとすれば、それで十分なことだと思っています。一年間で40回ほどは、校長講話を行う機会が与えられています。40回の中での1回の「新たな気づき」が誰かにはあるのだと考えています。一年間を通じて、その1回が今日の講話の中にあると信じて疑うことはありません。先生方は日々の学級活動や授業の中で、本当に多くのことを君たちに投げかけてくれています。君たち一人ひとりが、昨日よりも今日、そして、今日よりも明日と、少しでも多くのことを学び、成長してくれることを望んでいます。その一端となる校長講話の時間を大切に、これからも有意義な時間としてメッセージを送り続けたいと考えています。

◆ 二度咲きする金木犀（キンモクセイ）

11月も半ばとなりましたので、外を歩いていてもふわっとする金木犀の香りを感じる季節も終わってしまっています。金木犀はモクセイ科の常緑小高木の一種で、元々は中国から渡来した花です。その甘い芳香（ほうこう）は秋の風物詩にもなっていて、金木犀の開花時期は9月中旬～10月下旬とされていますが、気温の影響を受けやすく、気温が高いほど開花の時期が遅くなるそうです。最近では9月にいったん花が咲き終えた後に、10月にまた新しい花が開花して10月の下旬まで楽しむことができる二度咲きする金木犀もあるそうです。金木犀の二度咲きには、地球温暖化の影響があるといった指摘もされていて、そのメカニズムはまだ解明されてはいませんが、温暖化が進めば二度咲きする金木犀が増加すると予測されていて、11月に開花したこともあるそうです。

